

用水不足

4月

水 稲

【極早植の場合に限る】

水稲が最も水を必要とする時期は、穂ばらみ期（出穂前15日～出穂直前）が最大で、次いで、幼穂形成期（出穂前25日～15日まで）と田植直後から分げつ前期（田植から田植後10日～15日まで）、出穂開花期の順である。一方、分げつ期の後半は、少ない水量で足り、特に無効分げつ期（田植後25日～30日から出穂前25日まで）は、ごく少量で足りる。

これらのことから今後の用水量を考慮して、生育ステージに応じた適切な水管理と計画的な配水を行う。

1 早期栽培

活着期及び除草剤散布後は湛水状態とし、その後は黒乾きを限度に浅水管理とする。

2 その他留意事項

無駄な水を逃がさないよう、畦畔の漏水防止に努める。

水稲の節水栽培については、「[水稲節水栽培基準](#)」を参照する。

茶

1 かん水施設のあるところでは、スプリンクラーかん水を行う。かん水量は4～5日間隔で、1回あたり20mm程度を目安とする。

なお、保水性が劣る花崗岩土壌等ではかん水間隔を短くし、1回あたりのかん水量を少なくする。

2 かん水施設のないところでは、土面蒸発を抑えるため、敷草、敷藁を行う。

また、養水分の競合を避けるため、除草に努める。

野 菜

1 かん水、土壌乾燥の防止

かん水チューブ等を設置していないほ場で、畝間かん水できる場所は、畝間に水を流す。この場合、長時間、畝間に水がたまると根が傷む場合があるので多量の水を長時間、畝にためないように注意する。特に、土壌の乾燥が続いている場合の初めてのかん水は、土壌が湿る程度の量とする。畝間かん水ができない場合は、水中ポンプや動力散布機等を利用して、ホースで畝の肩や畝間にかん水を行う。

かん水チューブ等でのかん水が可能である場合、水量の確保できるほ場では、生育に合わせた定期的なかん水に努める。水量が限られている場合は、回数を減らして一回当たりのかん水量を多くし、根群全体に水分供給ができるようにする。

マルチなどにより土壌からの蒸発を防ぐ。

2 施肥、草勢維持等

土壌が乾燥している状態では、肥料が溶けにくいため肥効が遅れる。露地栽培は雨の前に、施設栽培の場合は、かん水前に施肥を行い肥効を高める。雨が降らない場合の露地栽培や水の確保が難しい施設栽培では、液肥や葉面散布剤を活用して肥料不足にならないよう、草勢維持に努める。

果菜類については、草勢維持のために適正な着果量、葉数になるように管理を行う。

土壌の乾燥が続くとトマト、ミニトマト、ピーマン等では、「心止まり」、「尻腐れ果」の発生が心配されるので、カルシウムを含む葉面散布剤を花房、新葉、生長点によくかかるように葉面散布する。

3 病虫害防除

アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、うどんこ病等の発生が予想されるので、防除に努める。

果 樹・オリーブ

露地の果樹では発芽直後にあたり、新葉が十分に展開していないため、乾燥ストレスが発生しても樹体の反応が現れにくい。しかし、根の吸水活性が高まり、展葉、枝の伸長への養分供給が盛んにおこなわれる時期でもある。この時期の乾燥ストレスは引き起こさないよう留意したい。一方、蒸発散量は多くはないため、過剰にかん水する必要はない。

1 土壌乾燥の防止

根群の多く分布しているところに敷藁、敷草等を実施し、蒸散を少なくする。雑草が繁茂している場合は、刈取りを行う。なお、除草剤の利用にあたっては、接触型および吸収移行型を使用し、土壌処理型は使用しない。

2 かん水（節水利用）

水の確保量を勘案して、確保できる水量が不十分であれば、細根が多く分布している部分へ集中的にかん水を実施するか、土壌表層に溝を掘り、その部分にかん水する。また、ドリップチューブを用いた点滴かん水法は特に有効である。ただし、この時期の樹体からの蒸散量は多くないので、過剰かん水とならないように留意する。

花 き

1 かん水、土壌乾燥防止

- 1) 節水する場合は、回数を減らしても一回当たりのかん水量を多くし、根群全体に水分供給ができるようにする。
- 2) 栄養生長期間の水不足は生育に大きく影響するが、収穫が近くになれば影響は小さいため、生育ステージによって節水量を加減する。
- 3) マルチ被覆や稲藁等を敷き、土壌水分の蒸散を抑制する。

2 施肥、病虫害防除等

- 1) 追肥は土壌が乾燥している状態では、固形肥料では溶けにくく肥効が遅れるため、液肥や葉面散布剤を活用して肥料不足にならないよう、草勢維持に努める。
- 2) 根量を増加させるため、株元に土寄せし、新根の発生を促す。
- 3) アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生が予想されるので、防除に努める。

畜 産

1 家畜管理

1) 十分な飲料水の確保

①減圧等の給水制限を考慮して、必要であれば貯水タンクを準備するとともに、節水対策として飲水器からのこぼれ水等を防止する。

2) 管理水等の減量

- ①畜舎や施設を洗浄する場合は、消毒の効果に支障をきたさない範囲で、水洗に用いる水量を最小限に抑えるように努める。
- ②水洗を行う前に散水や洗浄剤の散布を行い、洗浄には高圧洗浄機等を用いる。また、汚れのひどいところはブラシ等で擦り洗うことによって節水を図る。
- ③消毒液を調製する場合は、薬剤の容器に記載されている用法・用量、使用上の注意をよく読み、適正な希釈倍率とする。

2 飼料作物

- 1) 4～5月は飼料用トウモロコシやソルガム等の播種期であり、降雨が少ないと干ばつが発生しやすくなるので、天候に配慮しながら適期播種に努める。
- 2) トウモロコシを栽培する場合は、耐干性の強い品種を選択する。
- 3) 長期的に少雨傾向が予想される場合は、トウモロコシより耐干性が強く、播種可能範囲が広い上、生育期間が短いソルガムの栽培を選択する。